

歌舞伎舞踊の舞台上演構造 —『京鹿子娘道成寺』の調査・分析と再現— The Stage Structure of a Kabuki-dance: Survey, Analysis, and Representation of *Kyoganoko Musume Dojoji*

河合 珠空[†], 小野 淳平[‡], 小方 孝[†]

Miku Kawai, Jumpei Ono, Takashi Ogata

[†]岩手県立大学ソフトウェア情報学部, [‡]青森大学ソフトウェア情報学部
Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University
Aomori University, Faculty of Software and Information Technology

g031p035@s.iwate-pu.ac.jp

j.ono@aomori-u.ac.jp

t-ogata@iwate-pu.ac.jp

概要

本研究では、渡辺保による『京鹿子娘道成寺』の舞台構造を、舞台上演構造という視点から詳細に分析し、KOSERUBE上で、舞台上演構造の可視化を行う。本論文では、実装範囲を拡張し、更に改良を行った。目標としては、筆者らが開発している統合物語生成システムの物語表現形態として利用することを目指している。また、今後は、コンピュータゲームや自動生成コンテンツなど、他ジャンルへの応用も目指す。

キーワード：物語生成、歌舞伎、渡辺保、娘道成寺、KOSERUBE

1. はじめに

『京鹿子娘道成寺』は、数多くの有名な女形によって演じられて来た、歌舞伎舞踊の代表的作品の一つである。しかし、もともとは歌舞伎オリジナルの作品ではなく、古くから日本に伝わる「道成寺伝説」が、仏教説話や能、絵巻物、読み物などを経て形を変えて行き、現在の歌舞伎舞踊『京鹿子娘道成寺』に至った。また、『京鹿子娘道成寺』は、「安珍・清姫伝説」の後日譚にあたる作品でもある。

これまで、渡辺(1992)による『京鹿子娘道成寺』の舞台構造の分析を、舞台上演構造の視点から詳細に分析(河合, 2019)し、その結果をもとに、KOSERUBE(秋元, 2013)上で可視的イメージの再現を行った(河合, 2019)。本論文の目的は、この可視的イメージの再現を、実装範囲を一部分から更に拡張し、人物や音楽、背景にも工夫を行い、システムの作成を進めることである。なおこの研究は、今後は、筆者らが開発している統合物語生成システム(小方, 2019; Ogata, 2020のChapter 1)の物語表現形態として利用することを目指している。

2. 「道成寺伝説」の歴史

初めに記述した通り、『京鹿子娘道成寺』は、「道成寺伝説」が長年の歴史(安田 1989)を経て、形を変えてきた作品である。歴史については、河合・小方(2019)でも詳細な説明を行っているため、そちらも参照して頂きたい。

① 『本朝法華経験記』(『大日本國法華経験記』)

道成寺伝説が一番初めに見られるのは、『本朝法華経験記』(『大日本國法華経験記』)の第二百二十九話「紀伊国牟婁郡悪女」だ。話の内容は、前半に若僧に恋して裏切られた女が、若僧を鐘ごと焼き殺してしまうという女の情欲譚が、後半に女も若僧も法力によって救われる解脱譚の二つに分かれている。この物語の主旨は、女の悪縁に苦しんでいる若僧の法華経への発心によって解脱したという後半の解脱譚にある。後半は法華経の功德を男の視点で語ったものであるが、実際の物語としての力は前半の方にある。

また、同じ平安時代に成立された『今昔物語集 卷十四』の「紀伊国道成寺僧写法花救蛇語第三」も、『本朝法華経験記』と同じ内容であるが、ここでは、前半の若僧の難事への関心が強まっている。また、僧は鞍馬寺の「安珍」と名が記されているが、女は「寡婦(かふ)」とだけある。男の名しか記載されていないのは、男の視点が強調されているためだと考えられる。

この二つの違う点は、『今昔物語集』の方が、会話や女が蛇になった時の描写が詳細に記述されているという点である。

② 絵巻『道成寺縁起』

室町時代には、応永年間の成立と言われる和歌山県の道成寺所蔵の絵巻『道成寺縁起』がある。

①では、女が宿屋に籠って変身していたが、ここでは

男を追いかけながら変身して行く。女の心身の変化を生々しく伝え、さらに女を「紀伊国室の郡真砂」の宿の「亭主清次庄司と申人の姫（よめ）」と具体的に説明しており、女の視点が生じて来た作品であるとも言える。なお、「安珍」という名前は『元亨釈書』に現れるが、「清姫」は18世紀頃のものであり、人形浄瑠璃『道成寺現在鱗』の時に初めて名が見えた。これは、男の視点から女の視点への時代的变化を示している。

③ 能『鐘巻』、『道成寺』

観世小次郎信光作の能『鐘巻』は、鐘の再開と供養の場の話が最初に見られたものであり、そこでは女の行いを悪として捉える男の視点から、それを女の悲しみとしてみる視点が芽生えている。ここに来て、道成寺伝説は、男の成仏譚から女の表現に変容しており、これ以降道成寺伝説は女の物語として読み替えられることになって行く。

後の『道成寺』（三宅、2000）は、『鐘巻』の所化との問答や語りを簡略化、舞の部分強調した曲である。

『道成寺』では、蛇体が白拍子に姿を変えて鐘供養の場に現れ、恨みの鐘を落として、そこに籠る話である。この蛇体は成仏を願うのではなく、鐘に恨みをぶつけているだけである。

④ 『道成寺物語』（上中下の三巻）

万治3（1660）年には『道成寺物語』（上中下の三巻）が刊行された。上巻では、僧の熊野詣の道行が描かれ、中巻は、女が情念のあまり大蛇となって僧を焼き殺す話、下巻では、鐘供養に現れた女が大蛇となって鐘に籠る話及び僧と女の法華経供養による解脱譚が描かれている。このように、この物語の後日譚は二重になっている。

⑤ 「語り道成寺」、「古道成寺」

近世に入って道成寺伝説は、歌舞伎・浄瑠璃に取り入れられ始めた。道成寺鐘入りの所作事の始まりであると言われるのは、「語り道成寺」もしくは「古道成寺」と呼ばれる箏曲である。また『古今端歌大全』に載っている「道成寺鐘の段」は、能『道成寺』と『三井寺』の主要な歌詞を備えており、道成寺舞踊の先駆的な作品と考えられている。

歌舞伎における道成寺物は浄瑠璃にも影響を与え、様々な作品が道成寺伝説を利用し、多くが歌舞伎にも移された。しかしその後の関心はその後日譚に集約されて行く。道成寺の前半の話は、近世のリアルドラマ的な展開になじませるために、様々作り替えられて上演された。現在では、前半は歌舞伎・浄瑠璃共に清姫が蛇

となって日高川を渡る部分のみが所作事、景事として残っている。これは、道成寺伝説が、その全体としてのストーリーそのものよりも、鐘と蛇体と女の結び付きを表現することに関心が移っていることを示している。

⑥ 歌舞伎舞踊『京鹿子娘道成寺』

宝暦三（1753）年三月江戸中村座にて、歌舞伎狂言『男伊達初買曾我』の三番目に名女形初代中村富十郎が踊った『京鹿子娘道成寺』において、歌舞伎舞踊としての娘道成寺は一つの完成となった。

基本的に能『道成寺』の形をそのまま受け継いでいるが、この曲の歌詞には、道成寺伝説そのものや、女の過去は具体的に示されていない。ここでは、「道成寺伝説」が作品の背景を成す情報となっている。この作品ではストーリーの展開は問題でなく、あくまで変化の多い舞を見せることが主題となっている。

なお、道成寺舞踊では、月は歌詞から真如の月とイメージされている重要な要素ではあるが、現在の舞台では月のある夕暮れを示すイメージはない。夕暮れは変化物の現れる時間としてはふさわしいが、満開の花の下のみを強調した方が、若い女の華やかさや明るさを表現するにはふさわしかったためであろう、と考えられる。このように、道成寺舞踊『京鹿子娘道成寺』はもともとの伝説からははるかに遠ざかることとなった。

道成寺舞踊の基礎は、能『道成寺』において既に準備され、それによって華やかな明るい作品に変容した。

『京鹿子娘道成寺』はその近世的変容の完成であったと位置付けられる。

3. 渡辺保による舞台構造の分析

舞台上演構造の分析をした際に基盤とした、歌舞伎研究者及び批評家である渡辺保の『娘道成寺』についての紹介を行う。

『娘道成寺』とは、『京鹿子娘道成寺』の発生の経緯とその展開を、江戸時代の瀬川菊之丞や中村富十郎ら天才的な女形役者の軌跡と密接に絡めながら、総合的に記述した大作である。

最終章で、『京鹿子娘道成寺』の女主人公による演技（舞踊）を、「心」-「振り」-「歌詞」という三つの要素に分解し、全部で14の部分（現代の上演形態における11の部分）について、具体的な内容（値）を当てはめた表（表1）が記載されており、『京鹿子娘道成寺』の物語そのものの構造に関する記述が提供される。三つの要素の定義は、以下の通りである。

「心」・・・人物の本性を表す言葉

「振り」・・・踊りのジャンルを表す言葉

「歌詞」・・・唄のジャンルを表す言葉

渡辺保によれば、『京鹿子娘道成寺』は、民俗芸能から流行唄まで、あらゆる芸能ジャンルを吸収しており、一つの中心に向かって、これらのものが合成されたことによって成り立っており、表の要素の多様で変幻自在な組み合わせから構成されることが特徴である。

表1 渡辺保による「心」-「振り」-「歌詞」の構造表
(渡辺保, 1992, pp. 475)

舞踊の区切り	心	振り	歌詞
1. 道行	亡霊(嫉妬-芝居)	生娘(流行唄)	白拍子(能の道行)
2. 乱拍子	娘	白拍子	能
3. 中啓の舞	娘	白拍子	能(鐘づくし)
4. 手踊り	真奈児の娘の嫉妬	生娘	端唄(娼婦のエロティシズム)
5. 鞠唄	娘	鞠つき(踊り)	廓づくし(遊女)
6. 花笠	娘	花笠踊	わきて節
7. くどき	恋する女(裏切られた女)	娘	恋と嫉妬の小唄
8. 山づくし	娘	鞆鼓の踊り	山づくし
9. 手踊り	真奈児の娘の嫉妬	生娘	端唄(娼婦のエロティシズム)
10. 鈴太鼓	娘	鈴太鼓	田植唄(早乙女踊)
11. 鐘入り	本性	能がかり	能
12. 祈り	—	—	—
13. 蛇体	亡霊	能がかり	能
14. 押戻し	亡霊	能がかり	芝居とのつながり

4. 『京鹿子娘道成寺』の場面構成

『京鹿子娘道成寺』は、もとは14の場面があったが、現在では3つの場面を除いた11の場面のみ上演されることが多い。本章では、これら11の場面について、渡辺保の『娘道成寺』に記載されている内容に基づいて説明して行く。

① 道行(参考文献後の表2参照)

最初は、舞台上に語り手・演奏者が、花道から所化が登場する。そして、歌詞は「月は程なく入汐の～」という能からとった文句から始まり、「しどけ形ふりアアはずかしや」という歌詞の時に、白拍子花子が道行から登場し、花道にて舞を披露する。

これは、『京鹿子娘道成寺』の中で、唯一浄瑠璃の場面である。渡辺保の『娘道成寺』の記述によれば、「心・振り・歌詞がそれぞれ独自の意味をもって対立して複雑にからみあっている。「娘道成寺」という作品の多層的な魅力がうまれている。」(渡辺保, 1992, pp.456-457)。また、江戸時代では役の名前が一定ではなく、現在呼ばれている白拍子花子は幕末頃に決まったと言われている。

② 乱拍子(参考文献後の表3参照)

能の踊りを写したものであり、花道と舞台を行き来

しながら舞を披露する。システム上でも、花道を表現した背景を表示し、行き来しているようにしている。小道具は、道行の後に来る「禪問答」という、所化との会話の場面の中で貰った烏帽子をつけ、中啓という扇子を持っている。

③ 中啓の舞(参考文献後の表4参照)

ここから三味線が入り、歌舞伎の踊りになる。衣裳や小道具は、前の段と同じ。歌詞は、「三井寺」の、名月に興奮した狂女が鐘を撞く「鐘の段」からとった鐘づくしである(配川, 2016)。

④ 手踊り(参考文献後の表5参照)

何も小道具を持たずに舞う踊りである。歌詞は、娼婦の世界を唄っているが、振りは娘の振りと対照的である。さらに、心は嫉妬である。渡辺保はこれを、「三つの要素が、女の肖像を多面化しており、手踊りの肉體言語を生成している。」と述べている。ここでは、三味線と太鼓が基本だが、次の舞に切り替わる直前には、笛や鐘が加わり、演奏が豪華になる。そして、早変わりをして、次の鞠唄に続く。小道具として、架空の鞠がある。これは実際には、鞠は持っていないが、鞠をつくような仕草をしているためである。

⑤ 鞠唄(参考文献後の表6参照)

特徴としては、鞠をつく少女というイメージの躍動感ある場面だが、振りは遊女の姿を写している。

⑥ 花傘踊(参考文献後の表7参照)

古くから伝えられた民族舞踊で、歌詞の「わきて節」は古い歌謡の繰り返しである。ここでは踊りの名前の通り、花傘を持って舞う場面である。途中から、白拍子花子が舞台袖に引っ込み、次の場面の備をしている間、所化たちの花傘踊が披露される。

⑦ くどき(参考文献後の表8参照)

「口説」と書き、男の心情を吐露するシーンのことを指す。男女の恋の痴情があらわされ、同時に男に裏切られた女の恋の思い出が語られる。振りは、成熟した女のようなものである。そのため、心は、恋する女となっている。小道具は、手ぬぐいを持っている。また、くどきの歌詞は、全体が三つの小唄から成り立っている。

① 恋の手習い、つい見習いて、誰に見しよとして紅かねつきようぞ、みんな主への心中だて

② 末はこうじゃにな、さうなる迄はほとんど言はずに済ませぞえと、誓紙さえ偽りか、嘘か誠か、どうもならぬ程逢ひに来た

③ ふつつりりん気せまいぞと、嗜んで見ても情なや、女子にはなにがなる。殿御の気が知れぬ、悪

性な気が知れぬ

①は恋を知り始めた娘の唄, ②は恋する男女の問答の唄, ③は男に裏切られた女の愚痴の唄である。

⑧ 山づくし (参考文献後の表 9 参照)

前のゆったりとした踊りから, テンポの速い踊りとして対照的になっている。ここでは, 白拍子花子が鞆鼓を持っている。鞆鼓とは, 胸にひもでつける小さな鼓である。白拍子花子は, これに両手に撥を持って, 鳴らしながら踊る。

この踊りは, 民俗芸能の鼓舞に原拠を持つ鞆鼓の踊りの転化したものである。山づくしの歌詞には 23 の山が現れる。その中には, 実際の山と文学の中で「山」と呼ばれているものが含まれる。渡辺はこれを虚構の世界と記述している。また, 「づくし」(小方, 2016) には, ものや場所の名を呼んで, その精霊を集める呪術的な意味があり, 一つの世界をつくろうとする想いがある。

⑨ 手踊り (参考文献後の表 10 参照)

ここでもう一度手踊りが入る。

⑩ 鈴太鼓 (参考文献後の表 11 参照)

鈴太鼓とは, 振り鼓とも呼ばれる楽器のことである。『京鹿子娘道成寺』の中で, 一番多く楽器が使われている場面であり, 踊りの最中に早変わりが入っている。歌詞は「田植え唄」という唄である。歌詞中の早乙女とは, 田植えをする少女のことを指す。なお渡辺は, 岩手県の稗石に「道成寺」の田植え唄があり, 若い男が女に扮して早乙女踊を踊ったことを紹介している。

⑪ 鐘入り (参考文献後の表 12 参照)

最後に, 今まで娘や亡霊だったのが, ここで初めて本性を現している。この鐘入りで終わるのが, 本来の『京鹿子娘道成寺』の姿である。宝暦三年 (1753) の初演でも, 第九段 (手踊り) が終わると, 能と同じく, 鐘入りとなり終幕となっている。

5. 舞台上演構造の可視的イメージを再現するシステム

これまでに述べた『京鹿子娘道成寺』の舞台上演構造の詳細な分析や表に基づき, その構成要素を部品化し, KOSERUBE のデータとして組み込み, 舞台上演構造の可視的イメージを再現するシステムの説明を行う。

5.1. KOSERUBE の概要

KOSERUBE とは, 地域に因んだ登場人物や場所や物が登場する民話風物語を自動生成し, 上演するシステ

ムである。システムの内部構成は, 物語生成部とユーザインタフェース部から構成されている (図 1 参照)。

具体的には, インタフェース画面を通じてユーザが, 「主役と敵役」「物語の長さまたは型」「語り手」を選択する。そして, 物語生成部で, ユーザが選択したもから, 物語の概念構造, 文表現及び音楽表現を自動生成し, それらを静止画や動画と共に自動編集した紙芝居風の物語表現を表示する。

図 1 の丸印部分が, これまでに手を加え, 人物・背景 (舞台装置)・音楽 (楽器, 演奏者)・歌詞・踊りを再現した部分である。画像 DB とともに印で囲まれているコマンドファイルは, アニメーションの制御に関する記述を含み, 表示される舞踊の歌詞や音楽の再生タイミング, 背景画像の切り替えなどが記述される。

表 13 に今回の KOSERUBE に対して行ってきた内容をまとめて, 列挙している。

アニメーションでは, 背景に実際の舞台と同じ配置・人数で, 語り手と各楽器の演奏者のイメージ画像を表示した。また, 場面ごとに演奏している人にスポットライトを当て, 視覚的に分かりやすいよう工夫を行った。

舞踊の歌詞は, アニメーションに合わせて表示され, 踊りは, 横移動や上下の反復運動など単純な動きを組み合わせた簡易な形式で表現している。

システム内で使用される音楽は, 杵家 (1952) による『三味線文化譜 長唄 京鹿子娘道成寺』に記載してある楽譜を参考に, “和楽一筋” と呼ばれるフリー作曲・編曲ツールを使用して作成を行った。音楽は MIDI ファイルで作成され, コマンドファイルの記述に応じて拡張子を変更し, システム上で再生され停止する。

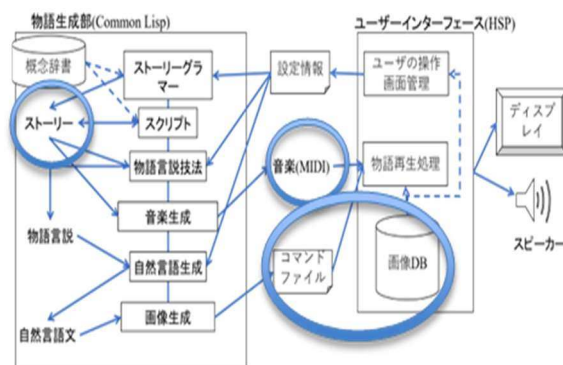


図 1 KOSERUBE の構成図

5.2. 場面ごとのシステム上での動き

ここでは, 各場面のシステム上での, 音楽や踊りなどの動きについて説明する。その前に, 以下にある場面複

表 13 KOSERUBE システムの更新内容

『京鹿子娘道成寺』のデータ	システムへの追加方法	KOSERUBE のデータ
舞踊の歌詞	テキストデータに舞踊の歌詞を記入して表示	ストーリー
長唄の伴奏と唄 (作詞: 藤本斗文 作曲: 初世杵屋 弥三郎)	フリー作曲・編曲ソフト「和楽一筋」を使用	音楽
背景・人物	『京鹿子娘道成寺』の舞台、白拍子花子	コマンドファイル・画像 DB
スポットライト	場面ごとに歌唱・演奏している人にスポットライトを当てている	コマンドファイル・画像 DB
踊りを表現	移動やジャンプ	コマンドファイル・画像 DB

表 14 KOSERUBE で使用されるコマンド一覧

コマンド名	効果	引数
Stand	対象キャラクターを表示する	対象キャラクターID D.初期X座標,初期Y座標
Move	対象キャラクターが移動する	対象キャラクターID D.移動距離,速度,方向
Jump	対象キャラクターが跳ねる	対象キャラクターID
ch_BG	現在の背景を対象背景に切り替える	対象背景の画像名
Pos	対象キャラクターを瞬時に指定座標へ移動する	対象キャラクターID D.移動先X座標,移動先Y座標
Shake	対象キャラクターが震える	対象キャラクターID
Txt	表示用テキストを画面下部に表示し、朗読を開始する	表示用テキスト,朗読用テキスト
Dsc	対象キャラクタの描写と説明を吹き出しで表示する	対象キャラクターID D.表示用テキスト,朗読用テキスト
Bd	垂れ幕を下ろす	なし
Bu	垂れ幕を上げる	なし
Fnc	音楽の切り替えを行なう。	物語関係名
Scr	再生中の事象がスクリプトかどうかの on/off	on もしくは off
Rest	画面に表示されているキャラクターと文を消去	なし

数の図についての説明を行う。

場面映像の中には、音楽・歌詞・背景や人物の画像の要素がある。(A)音楽は、楽譜がある場合は、楽譜から作成し、ない場合は、舞台のDVD(2003)の音楽を録音して使用した。(B)歌詞は、画像の下部分に表示されている。テキストに歌詞を手打ちし、システム上に表示させた。(C)背景や人物の画像は、実際の舞台と同じ配置・人数でそろえた。また、白拍子花子は、場面ごとに

衣裳や小道具を変えている。

コードとは、システムを動かすコマンドを複数記述したものである。背景の切り替えや音楽を流すタイミング、キャラクターを動かしたりすることが可能(表14参照)。表には追加されていないが、hana というコマンドでは、背景を花道に切り替えられる。

①乱拍子:(A)ここでは、実際の音楽を使用している。(B)この場面の歌詞は表3を参照されたい。(C)乱拍子には、舞台から花道に向かい、また舞台に戻るという場面がある。システム上では、舞台と花道をイメージした背景を交互に切り替えて表示している(図2,3参照)。コードとしては、背景を花道に切り替えるための hana

コード	場面映像
hana,1 mov,11,h,250,15,-1	

図 2 乱拍子の舞舞台上演構造①

コード	場面映像
pos,11,400,400 mov,11,h,250,15,1 pos,11,200,350	

図 3 乱拍子の舞舞台上演構造②(背景切り替わり)

というコマンドを使用し、hana1 なら花道の背景に変え、hana0 にすると元の舞台の景に戻すようにしている。

②中啓の舞:(A)音楽は、杵家(1952)の楽譜を元に作成を行った。楽譜の通り“和楽一筋”に打ち込んでいくと、実際の音楽とは速さが異なるため、実際の音楽を聴きながら作成した。(B)この場面の歌詞は表4を参照されたい。(C)中啓の舞では、手や足を細かく動かす振りが多かったため、キャラクタはあまり動かしていない。例えば、手を上下に動かしている振りは、mov のコマンドを使用して、キャラクタをジャンプさせることで表現したりしている(図4,5参照)。

③手踊り:(A)音楽は、中啓の舞と同様に楽譜から作成を行った。(B)この場面の歌詞は表5を参照されたい。(C)衣裳を変えておらず、小道具も持っていない。

④鞠唄:(A)音楽は、中啓の舞と同様に楽譜から作成を行った。(B)この場面の歌詞は表6を参照されたい。

コード	場面映像
mov,11,v,-50,-25,1 mov,11,v,50,25,1 mov,11,v,-50,-25,1 mov,11,v,50,25,1 mov,11,v,-50,-25,1 mov,11,v,50,25,1	 「初夜の鐘を撞く時は」

図4 中啓の舞の舞台上演構造①

コード	場面映像
mov,11,v,-50,-25,1 mov,11,v,50,25,1	 「是生滅法と響くなり」

図5 中啓の舞の舞台上演構造② (演奏者が変化)

(C)架空の鞠をついている振りの部分は、movのコマンドを使って、上下運動を繰り返すことで表現している。

⑤花傘踊り：(A)中啓の舞と同様、楽譜から作成を行った。(B)この場面の歌詞は表7を参照されたい。(C)小道具として、白拍子花子に花傘を持たせている。

5.3. 音楽に関する成果と課題

音楽に関する成果と課題点について列挙する。

まず、「歌詞」についてであるが、上記①(乱拍子)と②(中啓の舞)においては、資料のDVDを実際に見て、長唄の歌の部分の時間を秒単位で計測し、映像における歌詞のキャプションをその時間に合わせて表示した(今回のシステムでは歌詞はキャプションとして表示するだけで、システムによって歌わせることは出来ていない)。音楽だけの部分ではキャプションは表示されない。この方法に基づき残り3つの部分(③から⑤まで)についても、同じような実装を行っている。

次に、音楽について述べる。①の乱拍子については、楽譜が入手できなかったため、暫定的に資料のDVDの音楽をそのまま映像に重ねているだけである。その他②から⑤については楽譜から音楽再現を行った。今回扱った場面の音楽は三味線が中心になっており、三味線の楽譜を上記ツールで再現した。実際は三味線以外に太鼓や鼓も使用されるが、それらは再現していないので、違和感が残る表現となっている。また、実際の舞台上演における三味線の音より再現された音の方が高かった。それを解決するためには、舞台上で実際に使われた三味線の種類を調査する必要がある。さらに、楽譜の再現だけでは、映像の流れとの同期が取れない。そのため、実際の映像の速度に合わせて音楽を調整しな

ければならないが、それは今後の課題である。

その他、音楽の問題ではないが、本研究では舞い手の身振りの詳細な再現は狙っていないが、見かけはなるべく類似したイメージを使用することを目指している。そのためには、適切な小道具や衣装の画像を使用する必要があり、今後改善して行く予定である。

6. おわりに

『京鹿子娘道成寺』の舞台構造について、渡辺保による構造分析の提案を、舞台上演構造の視点から詳細に分析した結果に基づき、アニメーションツールであるKOSERUBE上で、『京鹿子娘道成寺』の舞台上演構造の再現範囲の拡張を行った。将来、KOSERUBE上で生成されたストーリーやプロットから自動で舞台上演構造を作り出し、言葉・映像・音楽で表現するシステムへの発展を目指す。さらに、このシステムをコンピュータゲーム(小野, 2017)の開発に繋げて行きたい。

文献

- 秋元 泰介・今淵 祥平・遠藤 順・小野 淳平・栗澤 康成・鎌田 まみ・小方 孝, (2013) “民話風物語生成・表現システム KOSERUBE 第一版の開発”, 人工知能学会論文誌, 28(5), 442-456.
- 小方 孝, (2016) “「尽し」の物語生成—歌舞伎等の調査とINGSにおける固有名詞概念辞書の開発による実現へ—”, 2016年度人工知能学会全国大会論文誌
- Ogata, T., (2019) A Computational, Cognitive, and Narratological Approach to Narrative Generation, In T. Ogata & T. Akimoto (Eds.), “Post-Narratology Through Computational and Cognitive Approaches”, 1-84, PA, IGI Global.
- Ogata, T., (2020) “Internal and External Narrative Generation Based on Post-Narratology: Emerging Research and Opportunities”, IGI Global.
- 小野 淳平・小方 孝, (2017) “「ギャップ技法」を利用して「驚き」を作り出すストーリー生成の方法—テーブルトークロールプレイングゲームに基づく物語自動生成ゲームへのアプローチ—”, 認知科学, 24(3), 410-430.
- 河合 珠空・小方 孝, (2019) “物語プロットからの歌舞伎の舞台上演構造の生成を目的とした『京鹿子娘道成寺』の分析”, 第63回ことば工学研究会予稿集, 25-61
- 河合 珠空・小方 孝, (2019) “歌舞伎の物語生成への音楽・音の導入に向けて”, 人工知能学会第2種研究会ことば工学研究会予稿集, 62, 61-72.
- 京鹿子娘道成寺, “坂東玉三郎 舞踏集 1 [DVD]”, 松竹ホームビデオ. (2003).
- 配川 美加, (2016) “歌舞伎の音楽・音”, 音楽の友社.
- 三宅 晶子, (2000) “対訳でたのしむ 道成寺”, 檜書店
- 安田 徳子, (1989) “道成寺伝説から『京鹿子娘道成寺』へ”, 聖徳学園岐阜教育大学国語国文学, 8, 1-12.
- 杵家 彌七, (初版1952 75版2018) “三味線文化譜 長唄 京鹿子娘道成寺”, 邦楽社.
- 渡辺 保, (1992) “娘道成寺 改訂版”, 駸々堂出版

表2 道行の舞台上演構造の分析表

道行	人	なし	なし	なし	なし	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	
	心	なし	なし	なし	なし	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)	亡霊(嫉妬-芝居)
	振り	なし	なし	なし	なし	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)	生娘(流行歌)
	歌詞	浄瑠璃	浄瑠璃	浄瑠璃	浄瑠璃	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)	白拍子(能の道行)
		月は程なく入る汐の	煙り満ち来る小松原	急ぐとすれど狐袖の	びらり帽子のふわふわ	しどけ形ふりアアはずかしや	縁を結ぶの神ならで	花の御山へ物好き参り	味な娘と人ごとに	笑わば笑え浜千鳥	君と寝る夜の後朝の	思えば憎や	鐘も砕けよ櫓木も折れよ	さりとは	さりとは	緑のしがらみ賑きとめて	恋をする身は浜辺の千鳥	夜ごと夜ごとに袖しぼ	しよんがえ	可愛い可愛いとひきしめて	しよんがえ	交わす枕のかねごと	も
	楽器	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線
	場面	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前	道成寺の前
	衣装	なし	なし	なし	なし	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)	赤(黒)
	小道具	なし	なし	なし	なし	扇子	扇子	扇子	扇子	扇子	扇子	扇子	扇子	扇子	扇子	扇子を口に くわえる	扇子を帯に 挟む	懐紙	懐紙を投げ すてる	なし	なし	なし	扇子
	肉体のポイント	なし	なし	なし	なし	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手

表3 乱拍子の舞台上演構造の分析表

乱拍子	人	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子
	心	娘	娘	娘
	振り	白拍子の舞	白拍子の舞	白拍子の舞
	歌詞	能	能	能
		花のほかに は松ばかり	花のほかに は松ばかり	暮れそめて 鐘や響くら ん
	時間	19:53 ~ 20:05	20:07 ~ 20:17	20:19 ~ 20:39
	楽器	拍子板	拍子板	拍子板
	場面	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)
	衣装	赤	赤	赤
小道具	中啓	中啓	中啓	
肉体のポイント	足	足	足	

表4 中啓の舞の舞台上演構造の分析表

中啓の舞	人	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	
	心	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘
	振り	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子	白拍子
	歌詞	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)	能(鐘つ能くし)
		鐘に恨みは数々	初夜の鐘は数々	鐘響くは	諸行無常は	後夜無常は	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは	鐘響くは
	楽器	三味線、太鼓	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線
	場面	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)
	衣装	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
	小道具	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓	中啓
	肉体のポイント	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足

表6 鞠唄の舞台上演構造の分析表

鞠唄	人	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	
	心	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	
	振り	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	鞠つき(踊り)	
	歌詞	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)	廊づくし(遊女)
		恋のわけ里	武士も道具を伏せ編笠で	張りとき意地の吉原	花の都は歌で和らぐ	敷島原に勤めする身は	誰と伏見の墨染め	煩惱菩提の撞木町より	難波四筋に通い木辻に	禿だから室の早咲き	それがほんにいろじゃ	一イニウ三イ四夜露雪の日	下の関路ともにこ身を	
	楽器	三味線、小鼓、太鼓、笛、鐘	三味線、小鼓、太鼓、笛、鐘	三味線、小鼓、太鼓、笛、鐘	三味線、小鼓、太鼓、笛、鐘	三味線、小鼓、太鼓、笛、鐘	三味線、小鼓、太鼓、笛、鐘	三味線、小鼓、太鼓	三味線、小鼓、太鼓	三味線、小鼓、太鼓	三味線、小鼓、太鼓	三味線、小鼓、太鼓	三味線、小鼓、太鼓	
	場面	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	
	衣装	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	浅黄	
	小道具	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	架空の鞠	
	肉体のポイント	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	

表7 花傘踊の舞台上演構造の分析表

花傘踊	人	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	所化等	所化等	所化等	所化等	所化等	所化等	所化2人	所化2人	
	心	娘	娘	娘	娘	所化	所化	所化	所化	所化	所化	所化	所化	
	振り	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	花傘踊	
	歌詞	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節	わきて節
		梅とさんさん櫻は	いずれ兄やら弟やら	分きていわれぬ	花の色え	菖蒲杜若は	いずれ姉やら妹やら	分きて言われぬ	花の色え	西も東もみんな見に来た花の顔	さよえ 見れば恋ぞ増すえ	さよえ	可愛らしさの花娘	
	楽器	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓、笛、鐘	三味線、太鼓	三味線、太鼓	
	場面	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)	桜の木(道成寺)
	衣装	淡紅色	淡紅色	淡紅色	淡紅色	赤の襦袢 卵色の股引	赤の襦袢 卵色の股引	赤の襦袢 卵色の股引	赤の襦袢 卵色の股引	赤の襦袢 卵色の股引	赤の襦袢 卵色の股引	赤の襦袢 卵色の股引	赤の襦袢 卵色の股引	赤の襦袢 卵色の股引
	小道具	花傘	花傘	花傘	花傘	花傘	花傘	花傘	花傘	花傘	花傘	なし	なし	
	肉体のポイント	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	

表8 くどきの舞台上演構造の分析表

くどき	人	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	
	心	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	恋する女 (裏切られ た女)	
	振り	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	
	歌詞	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄	恋と嫉妬の 小唄
	楽器	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線	三味線
	場面	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)
	衣装	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色	藤色
	小道具	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭	手拭
	肉体のポイント	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心

表9 山づくしの舞台上演構造の分析表

山づくし	人	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子				
	心	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘				
	振り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り	鞆鼓の踊り				
	歌詞	おもしろ四 季の眺めや	三国一の富 土の山	雪かと思れ ば	花の吹雪か 吉野山	散りくる散 りくる嵐山	朝日山々を 見渡せば	歌の中山石 山の	末の松山い つか大江山	生野の道の 遠けれど	恋路に通う 浅間山	一夜の情け 有馬山	いなせの言 の葉	飛鳥木曾山 待乳山	わが三上山	祈り北山稲 荷山	縁を結びし 妹背山	二人が中の 黄金山	花咲 この		
	楽器	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	三味線、太 鼓、小鼓、 鞆鼓、拍子 板	三味線、太 鼓、小鼓、 鞆鼓、拍子 板	太鼓、小 鼓、鞆鼓、 拍子板	太鼓、小 鼓、拍子 板、笛	三味線、太 鼓、小鼓、 鞆鼓、拍子 板	三味線、太 鼓、小鼓、 鞆鼓、拍子 板	三味線、太 鼓、小鼓、 鞆鼓、拍子 板	三味線、太 鼓、小鼓、 鞆鼓、拍子 板	
	場面	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)	桜の木(道 成寺)
	衣装	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色	黄色
	小道具	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓	鞆鼓
	肉体のポイント	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手	手

表 10 手踊りの舞台上演構造の分析表

手踊り	人	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子
	心	真奈児の娘の嫉妬	真奈児の娘の嫉妬	真奈児の娘の嫉妬	真奈児の娘の嫉妬	真奈児の娘の嫉妬	真奈児の娘の嫉妬	真奈児の娘の嫉妬	真奈児の娘の嫉妬
	振り	生娘	生娘	生娘	生娘	生娘	生娘	生娘	生娘
	歌詞	娼婦のエロティシズム	娼婦のエロティシズム	娼婦のエロティシズム	娼婦のエロティシズム	娼婦のエロティシズム	娼婦のエロティシズム	娼婦のエロティシズム	娼婦のエロティシズム
		ただ頼め	氏神さまが可愛がらしゃんす	出雲の神様と約束あれ	ば	つい新枕	廓に恋すれば浮世じゃえ	深い仲じゃと言いついて	こちゃこちゃこちゃよい首尾で
	楽器	三味線、太鼓、笛	三味線、太鼓、笛	三味線、太鼓、笛	三味線、太鼓、笛	三味線、太鼓、笛	三味線、太鼓、笛	三味線、太鼓、笛	三味線、太鼓、笛
	場面	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）
	衣装	紫色	紫色	紫色	紫色	紫色	紫色	紫色	紫色
	小道具	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
肉体のポイント	手	手	手	手	手	手	手	手	

表 11 鈴太鼓の舞台上演構造の分析表

鈴太鼓	人	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子	白拍子花子
	心	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘→本性	本性	本性	本性	本性
	振り	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓
	歌詞	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）	田植唄（早乙女踊）
		花に心を深見草	園に色よく咲きそめて	紅をさすが品よく形よく	ああ 姿やさしやしおらしや	さっさ そさっさ そ	皐月五月雨	早乙女早乙女田植歌	早乙女早乙女田植歌	裾や袂をぬらしたさっさ	花の姿の乱れ髪	思えば思えば恨めしやとて	電頭を手を	飛ぶよと見えしが	引きかづいてぞ失せける
	楽器	三味線、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓	三味線、太鼓、小鼓、拍子板、鈴太鼓
	場面	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）	桜の木（道成寺）
	衣装	紫色	紫色→白	白	白	白	白	白	白	白	白	白	白	白	白
	小道具	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓	鈴太鼓
肉体のポイント	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	